熊日1970.05.23

一任派代表が上京

水俣病補償 秘密行動で雲隠れ

水俣病補償処理委員会のあっせんを受けるため、水俣病患者家庭互助会の処理委一任派代表十三人は完全な秘密行動を取って、二十二日上京した。

一行は、二十二日午後二時十八分水俣駅発特急「はやぶさ」で上京の予定で、日本旅行会八代営業所を通じて水俣―東京間の寝台券の手配を済ませていた。ところが、列車の到着時刻になっても一行の姿は見られず、チッソ水俣工場のチッソ新労などの見送り人ばかりだった。患者家庭は出払っており、日本旅行会八代営業所には同日午前十一時、キャンセル手続きが取られていた。前日には「水俣病を告発する会のメンバーが上京を妨害するのではないか」などのテマが飛んでおり、妨害を恐れての秘密行動らしい。

また一行の東京での日程は「二十三日東京駅に降りて、厚生省に電話連絡して、行き先の指示を受けることになっており、宿舎は明らかにしたくない」としていた。

あっせん案阻止へ

東京で抗議集会やデモ

二十五日に予定されている水俣病補償処理委のあっせん案提示を前に、その"低額あっせん案を粉砕しよう"という集まりが二十二日午後六時から東京本郷の東大工学部八号館で開かれた。

水俣病東京抗議行動を成功させる会（世話人、宇井純東大工学部助手）の呼びかけで、水俣病を告発する会（本田啓吉代表）の機関誌「告発」の読者を中心とした有志約二百人が集まり、熊本からも本田啓吉氏をはじめ告発する会の会員や学生など約二十人がかけつけた。

まず本田氏が水俣病問題についての経過を説明し、二十日の公判でチッソ会社側が出した第三準備書面の矛盾、二十五日に提示される処理委あっせん案が人間無視の低額補償であるといわれる点などを強調、「苦海浄土」の作家石牟礼道子さんも、水俣病患者の悲惨さ、会社側の誠意のなさをとつとつと訴えた。そして世話人の宇井氏は専門（都市工学）の立場からみた処理委の検討のあいまいさを指摘し、成功させる会のメンバーからはこれまでの行動報告があった。

このあと質疑応答に移り「処理委のあっせん案は、水俣病患者の将来をまっ殺し、四大公害訴訟を中心に取り組まれている全国公害闘争にとっても大きな障害であり、さらに企業の人間破壊をますます増大させるものである」とのアピールを確認、処理委回答を阻止するための二十三日からの行動計画を決めた。

同計画によると二十三、二十四日は五、六班にわかれて二万枚ビラ配りなどの都内情宣活動。二十五日には朝八時に日比谷公園に集合、厚生省前まで抗議のデモをする予定。

（東京支社）